東京慈恵会医科大学
葛飾医療センターニュース
Katsushika Medical Center News
患者さん向けに作成しています

2024
No.69
spring

編集発行責任者　飯田 誠
〒125-8506　東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL:03-3603-2111(代表)
URL:http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/

INDEX

01. 診療科紹介(脳神経内科)
02. 診療科紹介(脳神経内科)
03. 診療科紹介(皮膚科)
04. 災害対策について

診療科紹介

●脳神経内科

脳神経内科では、脳・脊髄・末梢神経・筋の障害による様々な疾患の診断と治療を行っています。病気の原因は神経変性、脳血管障害、免疫異常、感染症など多彩ですが、中でも神経変性疾患は加齢が発症の危険因子であり、近年の人口の高齢化に伴い患者さんは増加傾向です。今回は、代表的な神経変性疾患であるアルツハイマー型認知症についてご紹介します。

❶認知症とは？

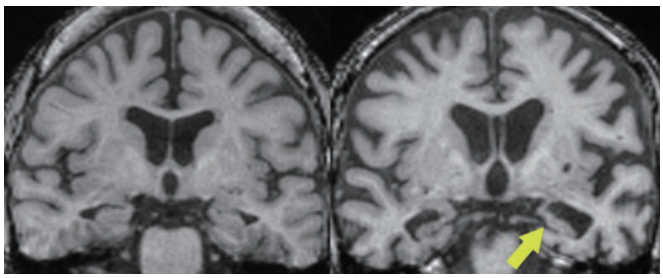
認知症とは、物事の理解や判断、記憶などといった認知機能が低下することにより、日常生活に支障をきたすようになった状態の総称です。認知症の原因となる疾患には、アルツハイマー型認知症（AD）、血管性認知症、レビー小体型認知症などがあり、なかでもADの患者さんが半数以上と最も多いです。ADの初発症状は“もの忘れ”が特徴的ですが、それは“出来事や約束を忘れる”といった内容が多く、加齢により誰でもみられる“人や物の名前が思い出せない”とは異なります。

加齢による”もの忘れ”とアルツハイマー型認知症による”もの忘れ”の違い	
加齢による物忘れ	アルツハイマー型 認知症による物忘れ
体験の一部を忘れる 例）朝食のメニュー	体験全体を忘れる 例）朝食を食べたこと自体
時間や場所を正しく認識	時間や場所の認識が混乱
日常生活に支障はない	日常生活に支障がある

❷アルツハイマー型認知症（AD）の診断

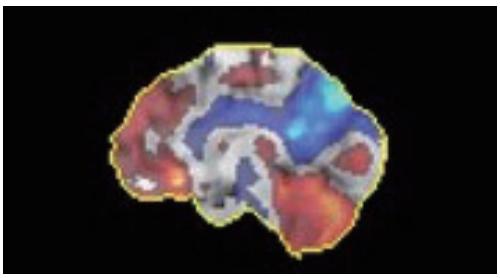
ADの診断は、問診と身体診察、認知機能検査、画像検査（MRI検査や脳血流SPECT検査）、血液検査などにより行います。MRI検査では海馬の萎縮（矢印）が特徴的です。

MRI検査



健常者　　AD

脳血流SPECT検査



❸アルツハイマー型認知症（AD）の治療

ADの症状に対する治療薬には、コリンエステラーゼ阻害薬（ドネペジルなど）とNMDA受容体拮抗薬（メマンチン）の2種類があります。両薬剤は、脳神経細胞同士の情報伝達を整えることにより症状を緩和させる働きがあります。

最近、AD発症の原因物質であるアミロイドベータという蛋白を除去する薬剤“レカネマブ”が保険適応となりました。これは画期的な薬剤ではありますが、投与対象となるのは発症からごく早期の患者さんに限られ、薬剤費が高額であることや副作用のリスクなどいくつかの課題があります。

認知症に対する適切な治療選択のためには、正しい診断が重要になります。また、認知症の治療には、薬物療法だけでなく運動療法や音楽療法などの非薬物療法や介護者のケアも大切になります。当科には日本神経学会専門医、認知症学会専門医が在籍しており、専門的な認知症医療を提供しています。当科受診をご希望される際はまずはかかりつけの医師にご相談ください。

診療科紹介

●皮膚科

皮膚科では、皮膚に症状がみられるすべての疾患を対象としています。まずはお近くの皮膚科医院にご受診いただき、通常の治療で治療が難しい場合や診断に苦慮する場合にはお近くの皮膚科医院のご紹介状をいただいてご受診ください。併せて、お薬手帳などもお持ち頂くと診療がスムーズになります。

当科では、後記の疾患の診療に力を入れております。乾癬に関しては、当院は日本皮膚科学会により乾癬の生物学的製剤承認施設に認定されており、従来の外用療法、内服療法、部分的な紫外線療法に加えて、重症や難治の患者さんには生物学的製剤を用いた治療を行っています。

アトピー性皮膚炎に関しては日本皮膚科学会「アトピー性皮膚炎治療ガイドライン」に基づいた治療を行っています。また、重症の適応症例には生物学的製剤であるデュピルマブ（デュピクセントⓇ）やネモリズマブ（ミチーガⓇ）やJAK阻害薬の内服を用いた治療も行います。これらは検査も頻回でコストもかかるので概略は事前にお近くの皮膚科医院にてもお聞きください。母斑、粉瘤などの良性腫瘍に関しては、病状にあわせて外来･中央手術室で手術を行います。悪性腫瘍も治療可能のものに関しては手術などの治療を行います。小児で手術が必要な場合、再建や化学療法、放射線療法など集学的治療が必要な疾患や全身麻酔が必要な場合に関しては、関連施設と連携をとりながら治療を行います。当科は保険診療を対象としており、自由診療は行っておりません。赤あざ、茶あざのレーザー照射機器、全身紫外線照射装置はありません。また、他院で行った美容診療やエステなどの美容処置に伴う皮膚症状に対する診療は行っておりません。

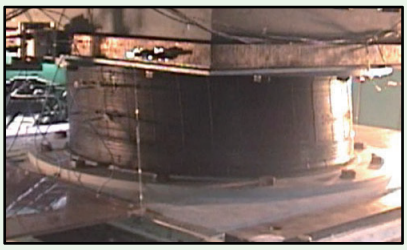
診療は、2名の専門医を含む7名の常勤医師が担当しております。新橋にある慈恵医大本院をはじめ、地域の医療機関や必要に応じて他科や他病院と連携を行いながら診療を行っていきます。診断、治療方針の定まった患者さんは、お近くの医院･病院で治療できるように積極的に逆紹介を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

災害への対策について

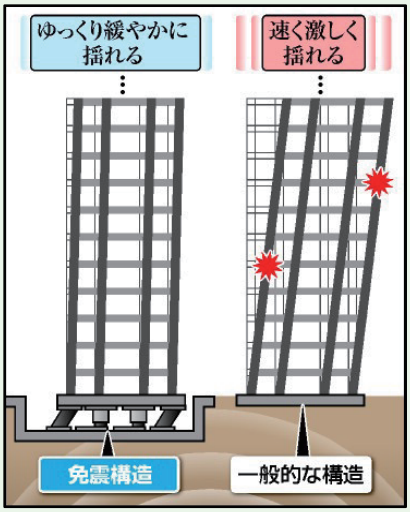
葛飾医療センターは災害拠点病院に指定されており、大規模災害時における救急医療を担うこととなっておりますので、当院の災害対策についてご紹介いたします。

【地震への備えについて】

はじめに、首都直下地震などの大震災に備えたハード面の備えについてご紹介します。地震の揺れに強い建物には、免震構造と耐震構造がありますが、当院では免震構造を採用しています。免震構造は、建物と地面の間に免震ゴムを設置することで、地震の揺れを吸収する構造です。この免震ゴムの設置により、地震の揺れが大幅に軽減されるため、当院では震度1～2程度の地震であれば、ほとんど揺れを感じることはありません。そのため、大震災が発生しても建物の損傷が最小限に抑えられ、病院機能を維持することが可能です。



建物の下に設置されている免振ゴム
出典:竹中工務店

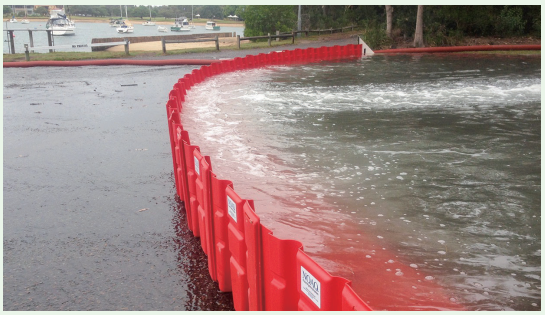


出典:朝日新聞

次に、ソフト面の対策をご紹介します。当院では、大規模災害対策マニュアルを院内の各部署で共有し、震災の発生時に迅速に対応できるようしています。具体的には、多数の傷病者が病院に殺到した場合、重症度によって振分けを行うトリアージを実施し、傷病者の受入れがスムーズに行えるようにしています。また、部署ごとのアクションカードを作成しており、こちらを活用することで院内の各部署が有機的に連携して対応します。

【水害への備えについて】

近年、大型の台風が日本列島を直撃し、多くの被害が発生しています。当院は、中川に隣接していることもあり、堤防の決壊による浸水に備えています。1つ目の対策として、病院の建物を周辺の道路から1メートル高い場所に建築しており、浸水し難くなっています。2つ目の対策は、ボックスウォールと呼ばれる器具を用いて建物内への浸水を防ぐこととしています。ボックスウォールは、土嚢や水嚢よりも止水機能が高く、持ち運びも可能なため短時間で組み立てることが可能です。



ボックスウォール設置時の様子
出典:ガデリウス・インダストリー

【最後に】

当院は、葛飾区を中心とした地域の拠点病院として、信頼される病院であり続けられるよう、これからも災害に強い病院作りを継続して参ります。